

私費留学 体験談



私のオーストラリアでの生活

南條 翔也さん 社会福祉学部ライフウェルネス学科 4年

オーストラリアを選んだ理由

私は3年生の2月から12月までの10ヶ月間、オーストラリアに私費留学で渡豪していました。ビザの種類は、ワーキングホリデービザ(以下ワーホリ)という1年間オーストラリア国内ならどこでも働くことができ、語学学校にも最大4ヶ月通えるというかなり自由度が高いビザです。オーストラリアのワーホリとは、100%自由で100%自己責任で何をするにも自分で考え、決断、行動しないとイケないものだと言えます。

渡豪最大の要因は海外のスポーツに興味があり、その中でもオーストラリアはかなり進んだスポーツ大国だったからです。私自身は本校のボート部に所属しているので、オーストラリアでもボートクラブに入り、ボートを通してオーストラリアのスポーツというものを肌で感じたいと思い決めました。

宿泊先

バックパッカーズというゲストハウスみたいなところに住んでいました。4人部屋で、フランス人2人とフィンランド人1人と生活し、互いの文化や行ったことのある旅先の話やこれからの話をし、にぎやかな部屋で生活していました。

準備期間

半年前にビザを取得し、宿泊先や飛行機、携行品などの準備を渡豪2か月前には終わらせていたと思います。

留学前の準備

オーストラリアは先進国で大体のものは現地で揃うので、普段から使っているものだけ日本で買って行きました。サングラスは1年中必要で、日焼け止めはオーストラリアの物を使ったほうが良いと思います。これは男子も同じでつけなければ本当に大変なことになります。僕は1回つけずにランニングしただけで、その夜は肌が痛くて眠れなかったのを覚えています。

語学学校

本校の国際教育課に相談し、いただいた資料を基に決めました。

私は現地で生きていくうえで必要な英語力を身につけたかったので、ジェネラル・イングリッシュ・コースがある学校にしましたが、ほかにも TOEFL 対策コース、美容師養成コース、マッサージ師養成コース、バリスタ養成コースなど英語の語学学校の中にも色々なコースがあるので、自分が興味のあるコースに行くことも可能だと思います。

アルバイト先

現地で入ったボートクラブの友人に色々な職を紹介してもらいました。現地の人たちからの情報は、語学学校や同じワーホリで友達になった人から教えてもらうよりかなり情報量は多く質が良いと思いました。

イタリアンのお店で働き、私以外英語圏の人達でそこでもかなり英語力は伸びたと思います。

留学先で困ったこと

文化の違いだと思います。

日本のボートクラブとオーストラリアでは当たり前ですが違って、郷に従っていたつもりだったのですが、ほぼ毎日が刺激的で困惑する日々でした。もちろんこういう日々がいい経験になるのは承知だったのですが、1 番の苦勞でした。

留学の費用

語学学校 3 か月 40 万円

食費は 1 日 3 食自炊し、ときどき外食や友達とカフェに行ったりと贅沢も節約もしない生活だったと思いますが、1 か月 250 ドル(21000 円)が平均的な食費でした。

宿泊費は 1 か月 600 ドル。(51000 円)

あとは必要なものを買ったり遊びに出かけたりと、ほかの出費を入れても月の生活費は 1200 ドル(102000 円)程度でした。(1 ドル=85 円)

アドバイス

先に書きましたが、私はオーストラリアでボートクラブに入っていました。練習やボートの漕ぎ方など日本と違ってかなり刺激を受けました。しかし、それ以外にも仕事の紹介をしてもらったこと、練習後にカフェに行ったり、毎週末みんなでバーに行って話をしたこと、クリスマスパーティーやレース後のパーティーからも刺激を受けました。また、スポーツが生む楽しさや、オーストラリア人が色々なスポーツを通して地域の人たちの QOL(クオリティーオブライフ)を

高めている姿、スポーツが日常生活に深く入りこんでいて重要視されていることなど、日本に住んでいては見つけられない、経験できないものがたくさんありました。

このように海外には外国語を学ぶ良い機会はもちろんのこと、外国に住んでいたからこそ文化や考え方が見えてきたり、それと同時に日本も見えてきたりできると思います。

ぜひ外国語を学ぶだけでなく、何か自分の持っている探求心も行く前に準備してみたらもっと面白くなるかもしれません。そしていっぱいチャレンジして冒険しましょう。

その分たくさん失敗して恥をかくと思いますが、きっとそれはいつか良いものになりますよ！

Keep challenging!!